

やさしい自然派住宅の
つくりかた

そざい Sozai Note のーと

vol. 13

『そざいのーと』バックナンバーは
ホームページをご覧ください

『www.saijo-d.com』

オーガニック建築Ⅲ



英国らしいレンガとガラス壁の外観をつなぐブリッジが楽しい



カラフルな空調用のカウルをのせた建物がまるで倉庫群のように並んでいる『Bed Zed』の住棟

ロンドン郊外

ゼロエネルギー住宅団地

『Bed Zed』

ここは、ロンドン北西部、ウォリントン地区に建つゼロエネルギー住宅団地。

すっかり有名になったカラフルな換気用のカウルを頭に載せ、パッシブソーラーデザインの建物が並んでいる姿は、個性的で、遠くから見てもすぐにわかる。近づいてみると、通路のところどころに庭がつくられていて、屋上にはルーファガーデンもあり、適度な緑化がなされた住環境になっていた。また、隣の棟とは栈橋でつながれていて、なんだか楽しそう。地域発電熱のプラントである木質バイオマス棟が、住棟から少し離れたところに建設されていた。

総住戸数は82戸で、住宅のサイズ・形態にはいくつかバリエーションがあり、敷地内には商業施設、オフィス、展示センター、幼稚園などが立地したサステイナブル

ルコミュニティを形成しているらしい。

『Bed Zed』は、消費するエネルギーと、ここで作られる再生可能エネルギーを、年間でプラスマイナスし、エネルギー消費ゼロを目指すゼロエネルギー住宅団地のモデル事業である。このサステイナブル建築の特徴は、高断熱性能と蓄熱性能を高め、自然素材・リサイクル素材など再利用可能な材料を利用し、消費エネルギーを抑え、雨水利用やバイオシステムを駆使した排水の浄化にも取り組んでいることだ。

カーボンニュートラル（二酸化炭素の排出と吸収がプラスマイナスゼロ）な環境を創造するための試みとして、石炭・石油・天然ガスなどの化石燃料に頼らず、再利用の資源から熱や電気のエネルギーを生成することにチャレンジしている。そのため、ソーラーパネルの他、建築廃材である木材チップを熱源としたCHP（コージェネレーション）によって作られた電気と熱は、温水に換えられ、地

域暖房に用いられる。また、車に頼らない暮らしを実現するため、利便性の良い公共交通の利用や、カーシェアリングで電気自動車普及させることで、本来、車で利用される化石燃料も50パーセント削減を目指していた。建築時に使用された資材も、再利用の鋼材や、森林管理協議会（FSC）の認証された持続可能な木材など、35マイル以内から調達し、建築工事で消費するエネルギーを削減している。

では、日本はというと、効率の良いバイオマス利用は、上手くいっていないように思う。最近の僕の周りでも、木質ペレットや薪ストーブを利用する人たちが増えてきているが、まだまだ一部の少数派。燃料の供給量を考えても、世の中が大きく変わることは望めない。それならば、建築資材の選択や調達を工夫することで、エネルギー消費を格段に減らすことは可能ではないかと思う。特別な装置を手に入れるのは、それに応じたコス

トがかかる。しかし、材料の調達であれば、それほど大きな負担にはならず、環境に配慮した建築が実現できるのではないだろうか。地元の、普段使いの、いつもの天然素材が、実は環境負荷の少ないオーガニックな建築につながるようになると思う。

僕たちがつくる自然派住宅は、まさにこんなコンセプトで、北海道の素材、資源にこだわった住まいを提案している。

西條 正幸

自然派空間デザイナー

北海道伊達市出身。

自然と人にやさしい建築デザインを専門とし、

建築デザイン事務所ビオプラス西條デザインを主宰。

オーガニックな暮らしをライフワークに、

仲間との有機農園やマーケットの運営、

講演会やワークショップなども企画、開催している。